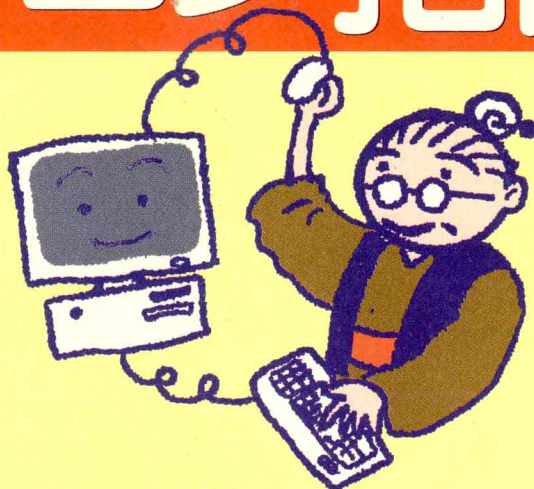


おばあちゃんの パソコン指南



コンピューターおばあちゃんの会

代表 大川加世子

おばあちゃんの パソコン指南



コンピューターおばあちゃんの会
代表 大川加世子

【コンピューターおばあちゃんの会】

高齢者にこそパソコンは必需品。でも、街のパソコン教室ではついていけない。超高齢化社会に備えて高齢者だけでのんびりと遊びの中でその操作をならう場所が必要と、1997年3月に発足。現在、89歳を筆頭に200人近い会員が、パソコンでさまざまな遊びを楽しんでいる。

事務局連絡先：〒156-0055 世田谷区船橋1-45-12

コンピューターおばあちゃんの会

E-mail：EGB25730@biglobe.ne.jp

ホームページ：http://www.jijibaba.com/

大川加世子（おおかわ・かよこ）

コンピューターおばあちゃんの会代表。

1930年生まれ。英文タイプ、ワードプロセッサなど、キーボードを使う仕事に長くかかわってきた経験から、ウィンドウズ95発売と同時にパソコンに転じ、その活動の中で、高齢者のためのパソコンサロンの必要性を痛感。奔走の後、同会を設立。現在、事務局として会の楽しい雰囲気維持につとめている。

おばあちゃんのパソコン指南

一九九九年九月十五日 初版第一刷発行

二〇〇〇年四月十日 初版第七刷発行

著 者——大川加世子

発行者——菊池明郎

発行所——株式会社筑摩書房

東京都台東区蔵前二一五三 郵便番号一一一八七五五
振替〇〇一六〇八四二二三

印 刷——中央精版

製 本——中央精版

装 丁——野村高志＋KACHIDOKI

©Kayoko Okawa 1999 Printed in Japan

ISBN4-480-87721-5 C0095

乱丁・落丁本及びお問い合わせは左記宛へお願いします。

〒三三ー八五〇七 大宮市柳引町二六〇四 筑摩書房サービスセンター

TEL〇四八・六五一・〇〇五三

イラストレーション
杉本浩一

おばあちゃんのパソコン指南 ■ 目次



プログラミング—みんなのうたと「コンピューターおばあちゃん」

3

第1章 インターネットはおいしいコロッケ

13

第2章 コンピューターおばあちゃん発動す

29

第3章 パソコンサロンは交流サロン

49

第4章 人生、苦もありや楽もある

69

第5章 みんなで楽しく遊ぼうよ

91

第6章 メーリングリストは大騒ぎ

111



第7章 おばあちゃんたちの8月15日

129

おわりに

147

へ付録

JJJBABAの
爺婆による
ジジババのための

パソコン指南



技術協力

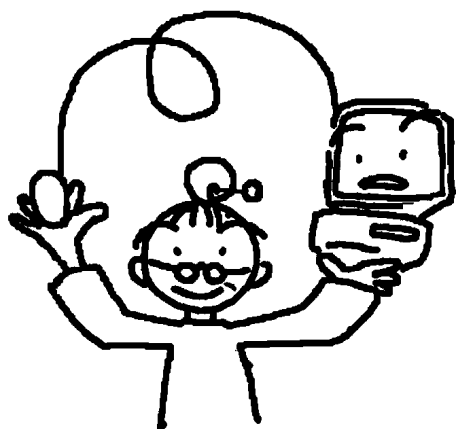
セコム株式会社・S研究所・ロボット研究室

石井純夫

目 次

1. パソコンを使ってみよう.....	1
1-1 パソコンを設置する.....	1
1-2 パソコンの電源を入れる.....	4
1-3 マウスを操作する.....	6
1-4 パソコンで絵を描く.....	8
1-5 文字を入力する.....	13
1-6 パソコンを終わらせる.....	27
 2. パソコンで手紙を送ろう.....	29
2-1 インターネットを使う.....	29
2-2 手紙を書く.....	34
2-3 手紙を送る.....	37
2-4 手紙を受け取る.....	42
2-5 写真を送る.....	44
 3. ホームページを見てみよう.....	53
3-1 ホームページを見る.....	53
 4. パソコンを楽しもう.....	61

おばあちゃんのパソコン指南



プロローグ——みんなのうたと「コンピ」ーターおばあちゃん

昔、昔、今から二十年も前になりますか……NHKの「みんなのうた」の中に「コンピ」ーターおばあちゃん」という歌があったのを覚えていらっしやいますか？

♪♪

コンピ」ーターおばあちゃん、

コンピ」ーターおばあちゃん、

ウオウウオウ、ウオウウオウ……

ぼくのおばあちゃんは

明治生まれのコンピ」ーター

算数国語社会 何でもドンと来いさ

物知り博学、足腰カクシヤク

元気にワンツースリー

英語もラクラク 入れ歯をカクカク

得意のABC

コンピューターおばあちゃん、

コンピューターおばあちゃん、

イエイエイエ 僕は大好きさ

♪♪

昔話からUFOの話まで

僕の聞きたいこと 何でも教えてくれる

バミューダ海賊 ハワイはワイキキ

世界をまたに

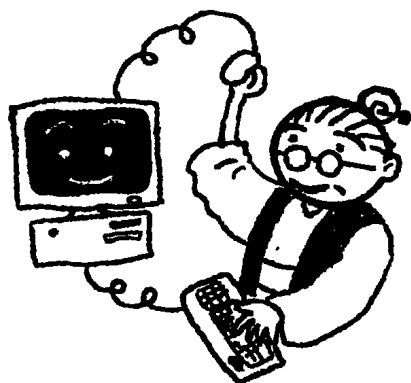
百聞一見 事件を発見

Let's go! おばあちゃん

コンピューターおばあちゃん、

コンピューターおばあちゃん、

イエイエイエ プログラムOK!



ずっといつまでも 長生きしてください

夢の宇宙旅行 きっと出来る日が来る



(作詞・作曲 伊藤良一)
日本音楽著作権協会 (出) 許諾九九〇九四八八〇〇七

明治生まれの、白髪頭をきゅつと後ろに束ねて着物を着た、ちやうど漫画の意地悪ばあさんのようなスタイルのおばあちゃんが、なんと最新のコンピューターをたたきまくるといふ、そのギャップの楽しさと、アニメの可愛さが、印象深く記憶の奥に残りました。

その衝撃的な印象深さは運命の暗示だったのでしょうか、その二十年後、ほんとうに毎日、爺婆じじばばと一緒にパソコン遊びに明け暮れるようになるなんて！

この歌の中の、時代を先取りしたモダンな「コンピューターおばあちゃん」がやつと今、実現したのです。その名も「コンピューターおばあちゃんの会」。小さなサロンも含めると、月に五、六回、六十歳以上の方のためにパソコンの講習をし、ついでにコンピューターを使ってみんなで楽しく遊ぶためのサロンです。一九九七年に発足

して、よちよち歩きながら、今年で三年めを迎えました。

歌にちなんで、会の名称は「コンピューターおばあちゃんの会」ですけれど、もちろん、おじいちゃんもたくさんいらっしやいます。会員は六十歳から八十八歳まで。ボランティアで来てくださっているインストラクター（つまり「パソコンの先生」）ってこと。私たちはサポーターと呼んでいます）はもつと若く、大学生、会社員、はては中学生（！）まで（この話はあとでくわしくいたしましょう）。もちろん、コンピューター関係の会社を退職なさってから教えてくださっている、七十歳のインストラクターの方もいますし、知っている人が知らない人に、お互いに教えあう和気あいあいとした光景も、他のパソコン教室などではあまり見られないものでしょう。

たとえば最近も、八十八歳の会員最高齢のおばあちゃまが、

「私は八十歳以上の方には教える側にまわろうかしら」

と、その日、いっしょにいらした九十歳のボーイフレンドに、

「どうしてそんなにヘジテイトなさるの……」

とおっしゃりながら、あまり気の乗らなさそうなおじいちゃまに一生懸命教えていらっしやいました。

この八十八歳のおばあちゃまは、外務省海外広報課が毎月発行しているビデオ「日

いくつになっても、世の中とは、
つながっていたいんですよ。



昨年3月、東京・世田谷で高齢者のためのパソコンサークルが誕生しました。その名も「コンピューターおばあちゃんの会」。60歳から最高87歳まで、待ってましたとばかりに150名以上が参加しました。「みなさん、パソコンをやりながら、ときめいているのがわかるんです」。この会の代表者であり、高齢者のパソコン普及につとめている大川加世子さん。でも、入会の動機が多くが「世の中に置いていかれたくないから」とは意外です。「年を取ると、新しいものがどんどん遠くなっていく。自分から近づいていかないとね」。さらに大川さんは、高齢者が楽しく生きるためにパソコンは欠かせない、と言います。「いつでも誰かと電子メールでおしゃべりできるでしょ。会話は高齢者の栄養ですからね」。世の中とつながっていたい。人とながっていたい。そんな想いから、パソコンを始めたおばあちゃんたち。NECのデジタルは、その若々しい勇気をサポートする、やさしいデジタルでありたいと思います。

ちょっとの勇気とデジタルと。

▲「コンピューターおばあちゃんの会」がモデルになった企業の新聞広告。手前が会の最高年齢88歳のおばあちゃま。中央が代表の大川加世子さん。

本紹介」でも、五カ国語で紹介されました。その最初の画面で、

“NEVER TOO OLD”

この言葉とともに、パソコンのキーボードの上にしわくちやの手がにゅーっとでてる、それがなんとも愉快でした。

また、この方は、新聞広告にも登場していらっしやいます。サロンがやっと少し軌道に乗り始めたころ、企業のPRで新聞の全面広告のお話がきたんです。

それまで、広告なんて可愛い子どもとか動物、美しいお花などを使うものと思っていましたから、このお話が来た時にはちよつとびっくり。おばあちゃんをモデルにする時代がきたなんて、世の中ちよつと変わってきたのかなあ。

いざ掲載されてみると、広告の反響の大きさに、こんどは企業がびっくり。高齢者って、こんなにパソコンに興味があつたんだ！そして、その広告は「女性に優しい広告賞」の佳作を受賞。やっぱり時代は動いているんですね。

八十歳代はこの方の他にも十人くらいいらっしやいますが、どなたも、今はメールもデジカメも達者にこなして、外国とのメールを楽しんでいらっしやいます。

七十七歳の喜寿のお祝いにお子様たちが

「お母さん、お祝い何がいい？」

「というので「パ・ソ・コー・ン！」って買ってもらったのよ、という元気なおばあちゃまもいらっしやいます。で、

「娘ったらつけ方は教えてくれたのだけれど、消し方を教えなくて帰ってしまったのよ。パソコンってどうやって消したらいいの？ いきなりスイッチを切っちゃいけないでしょ？」

電源の切り方を教えてもらった彼女は、「今日はこれだけものにして帰るの」と二時間の時間いっぱいを使って、電源をつけたり、消したり、また、つけたり消したりとやっておられました。

彼女が使っているのは少し古いパソコンで反応がゆっくりです、おばあちゃんはやきもきして、あるいは不安になって、すぐ、

「あらあゝ。壊れてしまったの？」

とあちこち触ります。

「ちよっと待って、いいえ触らないでゆっくり待って。ここではトイレに行けるくらいの時間がかかるかもよ」

と言って、あとでメモのノートを覗いたら、「ここでトイレ」と書いてありました。でも、このおばあちゃま、もう家でひとりでやっても大丈夫でしょうね。